

主な土壌消毒剤の種類と特性

令和5年3月 JA全農ちば

薬剤名	D-D	ドロクロール	ソイリーン	ガスタード微粒剤	ディ・トラペック ス油剤	キルパー	
ガスの種類	D-D	クロルピクリン	D-D クロルピクリン	MITC	D-D MITC	MITC	
同じグループの 薬剤	DC油剤・テロン	クロールピクリン・ クロピク80・ ドジョウピクリン	ダブルストッ パー	バスアミド微粒剤	トラペックサイド 油剤	NCS	
ガス抜き	有り						
※10a使用量	15~20L	20~30L (1穴あたり2~ 3ml)	20~30L	20~30kg	30~40L	60L	前作終了後から播種又は 定植の15日前まで 原液として40~60L/10a
※主な使用場面	主に施設、露地と も線虫防除に使用。	主に土壌病害防除 に使用。	線虫と土壌病害 が併発している 場合に使用。	主に土壌病害、苗 床の殺草対策。	線虫と土壌病害が 併発している場合 に使用。	主に土壌病 害、苗床の殺 草対策。	古株枯死対策。 早期に作物が枯れること による病害虫まん延防 止。
使用のポイント	線虫による被害が 大きい場合は、ネ マトリンエース粒 剤等を併用する。	剤特有の刺激臭が 強く、 消毒後の被 覆は必須。住宅地 周辺での使用を避 ける。 高温期はガ ス化が早いため、 気温の低い時に作 業を行う。	D-Dとクロル ピクリンの混合 剤。線虫+病害 の同時防除が可 能。消毒後の被 覆は必須。住宅 地周辺での使用 を避ける。高温 期はガス化が早 いため、気温の 低い時に作業を 行う。	土壌中の水分によ り分解されてガス 化するため、処理 前に水分調整を行 う。低温では、ガ ス化しにくい ため、露地での使用は注 意を要する。	D-Dとトラペッ クサイドの混合 剤。ガスタードな どと同様に低温期 はややガス化しに くい。	土壌中の水分 により分解さ れてガス化す るため、処理 前に水分調整 を行う。液剤 なので水で希 釈する方法も 可能。低温期 はややガス化 しにくい。	作後のベツト内に、液肥 混入器を用いて灌水処理 する。灌水量は原液の100 倍が目安。薬液60L処理の 場合6000Lの水で灌水す る。処理後ベツト・作物 を片付けガス抜き。

※ 各薬剤使用時には各作物の使用基準(適用作物、使用量等)に従って下さい。

【土壌消毒の効果を上げるには】

- ①被害残渣は、できるだけ圃場外に持ち出す。
- ②適度な土壌水分時に薬剤処理。
- ③ビニール被覆を行う。**クロールピクリン含有剤は必須。**
- ④ガス抜き前にトラクター、ロータリーの泥を落とし、未消毒土の混入を防止。
- ⑤未熟な堆肥(未熟有機物)は土壌病害が増加。